



群馬県にあるエネルギー総合商社の赤尾商事は、本社・営業拠点間のリモート接続等でVPNを構築していたが、近年、トラフィックの増加による通信速度の低下が顕著になり、業務にも少なからず支障をきたすようになっていた。そこで、同社は本社データセンター側で集中管理されていたファイアウォールをアップグレードし、各営業拠点側にSophos XG Firewallを新たに設置することで、高いセキュリティレベルを維持しながら負荷分散によるネットワークの高速化を実現した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE

なめらか・あったか・赤尾ならではの!



赤尾商事株式会社
群馬県高崎市上佐野町282番地1

社員数
163名

Webサイト
<https://akaashoji.co.jp>

ソフォスソリューションズ
Sophos XG Firewall

ソフォス製ファイアウォール製品をベースに、従来の集中管理型から分散管理型に移行したネットワークの刷新により、セキュリティに対する安心感を維持しつつ、ストレスのない快適な通信環境を得ることができました。

赤尾商事株式会社
総務部総務課
副課長 富田 伸介氏



ビジネスチャレンジ

赤尾商事は、昭和26年創業以来、創業者が唱えた「油の町医者たれ」をモットーに主にガソリンスタンド運営、LPガス事業、産業用燃料・潤滑油販売などのエネルギー関連業務を手掛けるエネルギー総合商社として発展し、群馬県、埼玉県、長野県、および福島県を中心に地域社会に貢献する地元密着型事業を展開している。また近年では、エネルギーの分野にとどまらず「世の中のお困りごとを解決する会社」になるという新たなビジョンの下、福祉車両・車いすの販売

およびメンテナンス事業、工場現場向けのパトロール給油事業、一般家庭の使用済食用油回収サービスなど、新しいニーズに対応した事業を次々と立ち上げている。赤尾商事は、群馬県高崎市に本社を置き、群馬県および近県に計23カ所の営業拠点を設けている。同社は、すでに本社データセンターに専用線でインターネットと接続されたソフォスのファイアウォール製品「Sophos SG310」を導入し、一般の光回線を利用して本社と営業拠点およびリモート従業員とのインターネット通信やファイル共有のためのVPN接続を運用していた。従来のネット

ワークでは、本社データセンターに設置された「Sophos SG310」でセキュリティが集中管理されていたが、近年ウェブ会議やクラウドなどのインターネット利用が増加したことで、営業拠点およびリモート従業員を含む全社のセキュリティ面での負荷が「Sophos SG310」に集中的にかかることで、ネットワークの輻輳が生じ、VPN接続の通信速度の著しい低下が顕在化してきた。このことにより、ファイルサーバーに朝や夕方など特定の時間に社員からのアクセスが集中して繋がりにくくなったり、Zoomによるウェブ会議が途中で途切れるなど、日常業務に支障

ファイアウォールの入れ替えに際し、競合製品と比べてコストパフォーマンスが優れていたのと、従来のネットワークで利用していた性能面およびサポートでの実績からくる安心感がソフォス製品を選定する決め手となりました

株式会社両毛ビジネスサポート
ITサービス事業部ITサービス2課
課長 狩野 旭氏

をきたすようになってきたのである。

テクノロジーソリューション

こうした状況の中、ネットワーク機器の入れ替えのタイミングを迎えていた赤尾商事は、同社のネットワーク設計・運用を手掛ける株式会社両毛ビジネスサポートに対して、通信性能の低下を解決する新しいソリューションの提案を求めた。赤尾商事と両毛ビジネスサポートは、ファイアウォール製品の入れ替えについて、ソフォス製品と共に候補となった他社製品を比較検討した結果、従来のネ

ットワークでの利用実績からくる安心感と優れたコストパフォーマンスの面から、最終的にソフォス製品を使って新しいネットワーク構成を設計することとなった。

ソフォスからの技術的アドバイスを受け、新しいネットワーク構成では、本社データセンター側にSophos XG 210を、また営業拠点側には各拠点の規模によって「Sophos XG86」や「Sophos XG106」、「Sophos XG 210」を設置してインターネットの出口をルーター化することで、ファイアウォールの負荷分散を実現し通信速度の高速化を図

った。また、ファイアウォール製品がすべてソフォス製で統一されることで、同一のセキュリティ・ポリシーに基づく高いセキュリティレベルを維持できるメリットもあった。

導入した成果

ネットワーク設計から、トラフィック検証テスト、および各拠点へのファイアウォール製品設置を含め、2020年6月からわずか約1か月の期間で新しいソフォス・ファイアウォールの導入を完了し、同年7月より本番稼働を開始して以来、現在まで安定稼働している。

新しいネットワーク構成で実現した本社データセンターとリモート拠点間のファイアウォールの負荷分散により、通信速度が大幅に向上し、業務効率を大幅に改善することができた。2020年初めより、国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、感染防止の観点から社内の打ち合わせや顧客との商談や顧客向けのイベントを対面形式で行うことができなくなり、代わりにZoomやTeamsなどの

ウェブ会議システムを利用する機会が著しく増えたのは赤尾商事でも例外ではなかった。当然、ウェブ会議システムの利用頻度が増すことでトラフィックも増加するのであるが、コロナ禍が本格化する以前にすでに新しい負荷分散型ネットワークに移行していたことで、従来生じていたような通信速度の低下を回避でき、社内コミュニケーション、対顧客営業およびマーケティング活動に加え

て、学生向けの会社説明会や内定式まですべて快適な通信環境の下、オンラインで行えるようになったことが大きなメリットとなっている。



今後の展望

ファイアウォールの負荷分散でネットワークの高速化に成功した赤尾商事であるが、同社の今後のネットワークやセキュリティ面の展望について、同社の富田氏は次のように述べている。「今回のネットワーク刷新で、セ

キュリティ知識に乏しいアルバイト従業員でも容易に扱えて、セキュリティが堅牢なVPN環境を限られた期間内で構築することができました。ただ、フィッシングや詐欺メールなどの被害が増加している昨今の状況を鑑みて、利用者である従業員の過失を未然に防止するためのセキュリティ教育は今後一層

重要になってくると考えております。従いまして、今後は従業員のセキュリティ意識や知識の向上に向けて、“Sophos Phish Threat”などソフォスの従業員向けセキュリティ教育サービスの導入を検討してまいりたいと考えております」

